

多摩地域史研究会会報

第165号

2025（令和7）年3月15日発行

【第123回例会報告】今回の例会は、2月6日（土）八王子市の初沢城にて、西股総夫氏を講師に下記のような内容で行われました。参加者は西股氏を含み13名でした。

多摩の中世城館を歩く

初 沢 城

西股総生

（中世城郭研究会）

【初沢城の沿革】

『新編武蔵風土記稿』多磨郡由井領上栢田村の高乗寺の項に「城嘘」とあり、城主に関する明確な伝承は失われているが、横山党末裔の栢田氏または高乗寺を開基した長井高乗の城、との説を紹介している。

また、上杉（山内）顕定が推定永正7年（1510）3月晦日付で三田弾正忠に宛てた書状には、「栢田事大切候、彼地へ動候者、即被馳籠、堅固之備肝要候」とあって、敵の攻撃に対して「栢田」の備えを固めるよう、三田に命じている。「栢田」が初沢城を示すという説と、片倉城を指すとする説がある。ただし、近世の片倉村は柚木領である。

この時期、関東では古河公方家の家督争いに端を発する戦乱が泥沼化しつつあり、関東管領の山内顕定は越後に軍事介入して長尾為景と戦っていた。一方、伊豆に続いて小田原をも手中に収めていた伊勢宗瑞は、隙をついて関東に勢力を広げようとしていた。顕定が、「栢田」を守る三田弾正忠に警戒を指示したのも、そうした情勢を危惧してのことと見てよいだろう。

「栢田」は同年5月には伊勢宗瑞方の攻撃を

受けて自落したらしい。

【初沢城の縄張】

初沢城は高尾駅から一見して城跡とわかる小高い山上にあって、標高は291m、北麓から比高は115mを測る。山頂から山麓にかけて遺構が観察できるが、山頂部には第2次大戦中に軍の防空施設が置かれた際の地形改変もあるようだ。

図1の三角点のある曲輪が主郭①で、南の曲輪②につづく稜線に小郭と堀切を連続させているが、道が堀切を埋めていてやや判然としない部分もある。西側の斜面を主郭①に登ってくる道は、防空施設による破壊であろう。

南側の曲輪④は、配水施設と遊歩道の造成によって旧状が損なわれているが、『日本城郭大系第5巻』所収の図には堀切が描かれている。曲輪②から東に出ている尾根にも堀切と曲輪③がある。曲輪2の南西下にも堅堀と横堀・壁を組み合わせたような遺構がある。

主郭①から西・北・東の三方に下る尾根に対しても、腰曲輪や切岸、堀切・堅堀を組み合わ